

1 市内にある白山神社

(1) 白山が見えた！

今年の冬(平成4年2月9日)快晴の朝、庄内川の堤防を散歩していると、工場群の間隙から、白山らしきと思われる峰が見えました。

「まさか、白山が見えるなんて」と思いながら、確かめるため龍泉寺山に登ってみた。

北の方向を見てみると、左手には伊吹山が、右手には北アルプスがみえ、真ん中に雪をいただいた白く輝く峰が見えた。日本三霊山の白山だ！

白山はさまざまな峰からなり、石川、福井、富山、岐阜の4県にまたがってそびえる大きな山塊です。(中心となるのが御前峰^{ごぜんがみね}(2702m)、大汝峰^{おおなんじみね}(2,684m)、剣ヶ峰^{けんがみね}(2,677m)の白山三峰)



松河戸町↑ 龍泉寺山から 平成4年2月9日

子どもの頃は、工場の煙突もなく高層建築もなかったので、小野小学校へ通う田んぼ道からもよく見えたが、最近ではめったに見られなくなって、知る人も少なくなった。

白山を望見し得る地域は、13府県に及ぶといわれています。

そういえば、松河戸の氏神様は白山神社です。

「白山神社」は全国に約3千社近くあるといわれ、岐阜県、福井県、新潟県に次いで多いのが愛知県(約200社)で、それから石川県です。

愛知県は白山から遠いにも関わらず山麓の石川県より多いのは、愛知県内の各地から白山を望見することができ、彼方にある白山への憧れから白山信仰者が多かったとよると考えられます。

現在、春日井市内には白山神社が4社ありますが、境内社としては伊多波刀神社、熊野神社等に祀られています。

また、合祀された白山神としては、「菊理姫命」が勝川天神社、朝宮社、牛山天神社、五社大明神社、和爾良神社等に、「白山比女命」が鳥居松の神明社に、「白山大権現」が神領の三明神社にそれぞれ合祀されています。

この機会に、白山信仰について、また春日井市内にある白山神社について調べてみることにしました。

(2) 白山信仰

養老元年(717)、越前(福井県)の僧「泰澄^{たいちよう}」が初めて白山に登拝しました。

その時、緑碧池^{みどりがいけ}から、十一面観音^{ほんちすいじゃく}の本地垂迹化身である九頭龍王^{くずりゅうおう}が出現して、自らを伊弉册尊^{いざなぎのみこと}の化身で白山明神・妙理大菩薩(白山妙理権現(白山明神))と名乗って出現したのが白山修験場開創の由来と伝えられ、最高峰の御前峰^{ごぜんがみね}(2702m)に白山比咩神社^{しらやまひめじんじや}を建立し白山比咩大神^{くくりひめのみこと}(菊理姫命)を祀り白山信仰の基になったとのことです。

※ なぜ「白山比咩大神」が「菊理姫^{くくりひめ}」と同一神になったのかは、いろいろな説がありますが、正確な所は分からないそうです。

なんと、多くの神仏が出現して混がらありますが、この時に素朴な白山信仰は神仏習合の中に組み込まれたこととなり、多くの修験道が白山を参拝するようになります。

以来、神々しい神の山は人々の憧れとなり、白山信仰は急速に全国に広まっていきました。

白山登拝が盛んになると、加賀(石川県)、越前(福井県)、美濃(岐阜県)には、その拠点となる馬場^{ばんば}が設けられ、多くの人々で賑いました。

江戸末期に誕生した洲原講^{すはらこう}は、松河戸でも「お洲原まいり」のための講が組織されており、村の代参や気の合った仲間、白山比咩神社の前宮である洲原神社(美濃)へ五穀豊穡の祈願に出かけました。

白山比咩神社は、加賀馬場の中心として栄え、比叡山延暦寺の末寺として多くの衆徒を擁し、全国に勢力をおよぼしました。

春日井市域の白山神社の祭神のうち、4社すべてに共通しているのは「菊理姫命^{くくりひめのみこと}」です。

菊理姫は謎の多い神様で、日本の歴史を記した日本書紀の神話の部分では一文のみ登場し、あとは謎に包まれた神様です。

菊理姫の御神徳は、日本書紀のイザナギとイザナミの争いの仲裁に入ったことから、結びの神(縁結び、夫婦円満)、白山の主祭神であることから農業神(五穀豊穡)などです。

○ 松河戸白山神社の御神像(菊理姫命)の木造彩色立像

厨子の底には「寛政四年 鎮座 子四月朔日社僧 昌福現住禅應代 造立」とあり、社僧(別当寺)であった昌福寺住職禅應師の時に造立鎮座されたことがわかる。

御神像は背丈 20 センチほどの女神立像で、両手の掌を胸前で重ねた上に皿があり、その上にとぐろを巻き首を持ち上げた形の龍をいただく姿で、加賀白山大権現御神像によく似ている。

白山開山の泰澄大師が養老元年(717)に初めて白山に登り転法輪窟において 27 日間の祈念加持を勤めたところ、足下の翠ヶ池から巨大な龍が現れたという。龍の姿が消えると白衣綾羅の唐女のような女神が現れたので拜んでいると、十一面観世音菩薩のお姿になったと伝えられている。

当社の御神像は、この伝説に由来するものと考えられている。 郷土史かすがい 村中治彦氏から



味美の二子山古墳公園にある菊理姫命を想像させる像

「日本書紀」に出てくる女神。

黄泉(よみの)国からにげる伊弉諾尊(いざなぎのみこと)が黄泉平坂(よもつひらさか)で伊弉冉尊(いざなみのみこと)とあそびたとき、二神の主張を聞きいれ仲裁に入った。

石川県白山比咩(しらやまひめ)神社の主祭神

(3) 春日井市内にある白山神社

春日井市内にある白山神社について調べてみることにしました。

① 松河戸の白山神社(春日井市松河戸町6丁目 3-4)

白山神社の創建は明らかではありませんが、神社再建の棟札に明応3年(1494)とあります。

その棟札は現在不明ですが、戦前の神社の記録に棟札の文字が残されていました。

荘園がくずれて、現在の村(村落)が起こり始めた室町時代に、尾張地方に白山信仰が芽生えた初め頃に村民が造った村の鎮守社です。

松河戸村絵図(天保 12 年(1840))をみると、現在の白山神社の場所に「白山宮」があり、かつての各島にも神社があつて、それぞれ信仰神が祀られていました。P4 図参照

神道では神霊を分割(分霊)しても同じ力があると信じられていたので、各島の「氏神様」に大きな神社(島人の信仰神社)からの祭神を勧請したと思われます。

大正元年に国による1村1社合祀令により、松河戸の各島の9社(無格社)とその境内社5社及び昌福寺の御嶽社の祠(15社)を、門田島の白山宮に合祀又は境内社とし、白山社は、松河戸の「村社」(白山神社)となりました。

そして、それぞれの神社の跡地は畑地として開墾し、年貢を取って神社の維持費としており、区画整理が行われる前までは、各島の神社跡には小さな祠が建てられていました。

白山宮の祭神は、白山の白山比咩神社の祭神の「^{くぐり ひめのみこと}菊理姫命」一神でしたが、大正元年に八ツ家の八幡社の「^{おうじんてんのう}応神天皇」、道下島の浅間社の「^{このはななくやひめのみこと}木花咲耶姫命」、天王宮の「^{すきのうのみこと}素戔嗚尊」の四柱神を合祀し、あとの10社と昌福寺の御嶽社を境内社として祀っています。

したがって、我が松河戸白山神社は、多くの神々を祀った神々の集合体であり、豪族が建立した神社とは異なって、土俗信仰の中に素朴な古代信仰を偲ぶ松河戸の村人が祀ってきた氏神、鎮守の神、産土神であります。

尋常小学唱歌(明治45年)「村祭り」がありますが、今回巡った5つの白山神社の中では、この白山神社が当時の松河戸の「村祭り」を最も彷彿とさせてくれる神社のように思われます。

初詣のおり、社務所では白山神社の御札の他に、伊勢神宮の御札も受けることができます。また、隣接する別当寺であった昌福寺の参拝も兼ねる人もあります。

神社の社格制度はなくなっていますが、愛知県神社等級認証では12級社に認定されています。

大正元年に国による1村1社合祀令により、松河戸の島の神社9社(境内社5社)と御嶽社の15祠を白山社に合祀又は境内社とされ、白山社は白山神社(村社)となった。

(旧社格 村社)

| | | |
|------------------|---|---|
| 島 の 神 社 | } | 門田島の 白山社 |
| | | 道下島の 津島神社 (天王宮)・ 浅間社 |
| | | 中小路島の 市岐島社 (弁財天) |
| | | 八ツ家島の 八幡社 (同境内の 山神社 、 小野社) ※ 社天王社 は道下島の 津島神社 (天王宮)と合祀 |
| | | 中島の 熊野社 (同境内の 神明社 、 宇賀社) |
| | | 川原島の 愛宕社 (火防)(同境内の 龍神社)、段下の 齋宮社 |
| | | 昌福寺境内の 御岳社 ※ 赤 は松河戸の九の宮、 青 はその境内社 |

※ 白山社に「伊弉諾尊」「天照大神」「大山津見命」の三神が境内社として祀られており、大正元年に伊弉諾尊・天照大神は熊野社へ、大山津見命は山神社へ合祀した。(平成10年、御神体箱の由緒書により判明した。)



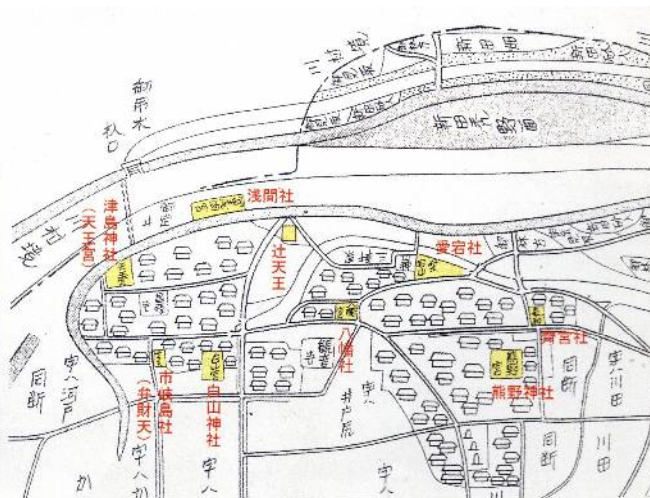
松河戸の白山神社 (現在)

白山神社関連年表

| 時代 | 時代 年号(西暦) | ことがら | 備考 |
|----------------|---------------------|--|---------|
| 室町 安土 桃山 | 明応3年(1494) | 造立 戦前の棟札に奉造立と記載されていた。(棟札の所在不明) | |
| | 元亀年中 天正年中 | (1570~1573)八ツ家島の八幡社の創立 (1573~1592)道下島の浅間社の創立 | |
| 江戸 | 慶長年中 (1596~1615) | 「尾張御行記」には、境内除地及び燈明料の田が認められているものとして、白山祠以下6社があげられており、白山祠は慶長年中の建立とある。 川原島の齋宮社・愛宕社の創立、中島の熊野社の創立 | |
| | 慶長11年(1606) | 再興 戦前の棟札に記載されていた。(棟札の所在不明) 道下島の天王社(津島社)創立 | |
| | 元和9年(1623) | 再興 戦前の棟札に記載されていた。(棟札の所在不明) | |
| | 享保2年(1717) | 白山一王子神社修復 戦前の棟札に記載されていた。(棟札あり) | |
| | 寛政4年(1794) | 御神体木像(菊理姫命)造立 | |
| | 文化年間 (1804~1817) | 「尾張御行記」寛政4年(1792)~文政5年(1822)に6祠掲載されている。「白山祠」の名あり | |
| | 天保12年(1840) | 「松河戸村絵図」に各島の神社(9社)が記載されている。「白山宮」の名あり | |
| 明治 | 明治5年(1872) | 白山社が村社に列せられる。 | 神仏分離 |
| | 明治40年(1907) | 白山社が供進指定される。 | 1村1社令 |
| 大正 | 大正元年(1912) | 村内の神社を白山社に合祀又は境内社とする。村社に列せられる。 | |
| | 大正13年(1924) | 神饌幣帛料供進指定(白山神社) | |
| 昭和 | 昭和11年(1936) | 白山社本殿建立(旧社) (棟札あり) ※昭和15年の本殿建立の棟札も存在する | |
| | 昭和21年頃 | 大正元年白山神社に合祀された各島の旧社地に少祠か建てられる。 小野社は、小野小学校の奉安殿を社殿として元あった道風屋敷跡に戻す。 | 政教分離 |
| | 昭和26年(1951) | 宗教法人法が制定施行され、昭和27年9月白山神社は神社本庁の包括下となる | 宗教法人法制定 |
| | 昭和28年(1953) | 5月 白山神社規則制定施行 | |
| | 昭和50年(1975) | 白山神社祭文殿 末社修理 (棟札あり) | |
| 平成 | 平成2年(1990) | 上棟式、餅投げ 区画整理を見据え現在の社殿に建て替えられる。(本殿、祭文殿、拝殿、透垣門 再建) | |
| | 平成3年(1991) | 6月24日 遷座祭、6月30日 竣工奉祝祭、稚児行列 | |
| | 平成9年(1997) | 「津島神社(天王社)」の小祠が境内社に移される。 「辻天王社」の小祠が撤収される。(八ツ家島東) | |
| | 平成10年(1998) | 「明神社」の御神体 本殿から境内社(熊野社)に移す。 | |
| | 平成12年(2000) | 「齋宮社」「熊野社」の小祠が境内社に移される。 | |
| | 平成22年(2010) | 道風公園の「小野社」のご神体が白山神社に遷座される | |
| | 平成23年(2011) | 区画整理で境内が整備され、完成奉告祭が行われる。 | |
| 平成29年(2017) | 今年度で氏子の島組織が終了する。 | | |



▲熊野社



上記地図は、松河戸村絵図(天保12年(1840))から転記したもの (松河戸誌研究会平成28年から)

② 味美の白山神社(春日井市二子町2丁目11-3)

二子山公園内に国指定史跡の二子山古墳、県指定史跡の白山神社古墳、御旅所古墳があり、白山神社古墳の墳頂に白山神社があり、周りに周濠をめぐらしています。

普通神社は南向きが多いのですが、この神社はめずらしく西側を向いています。

万治2年(1659)8月に白山藪古墳(味鏡古墳群のひとつで「オハクサヤブ」と呼ばれた藪の中にあった。)にお祀りされていた白山社を現在地(白山神社古墳)へと御遷座し、同時に二子山古墳に祀られ延喜式神名帳にも記されていた物部神社を合祀して建立されています。

社殿は白山神社古墳の上に建てられ、大正七年(1918)には春日山古墳(白山神社から県道102号を挟んで西方約300mに位置する)にあった春日社も合祀され、現在はくくりひめのみこと 菊理比咩命・いざなぎのみこと 伊邪那岐命・いざなみのみこと 伊邪那美命・うましまでのみこと 可美真手命・あまのこやねのみこと 天児屋根命の五柱をご祭神として祀っています。

この味鏡を含む味美の地域は、五世紀頃にはかなり有力な豪族が支配していたともいわれており、この白山神社は豪族の氏神、守護神を祀った神社の集合と思われます。

松河戸の村民によって祀られた白山神社と違って大きな規模の神社です。

明治時代の近代社格制度では、郷社に列格していました。

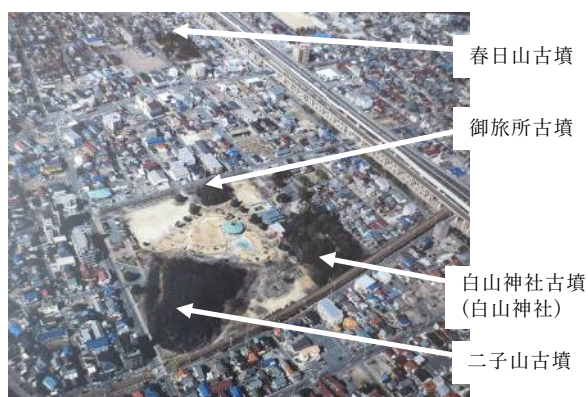
また、昭和27年(1952)2月に愛知県神社等級認証で五級社に認証されています。(旧社格 郷社)



鳥居



拝殿

味美古墳群 南東からの航空写真
二子山公園内のハニワの館のパネルから

※ 春日井市内の旧県社は、内々神社と伊多波刀神社(上田楽町)の2社で、旧郷社は白山神社(味美)、小木田神社(小木田町)、松原神社(東山町)の3社でした。

③ 白山町の白山神社(春日井市白山町9丁目6-2)

高蔵寺近郊の丘陵地にあり、旧社殿は現在地より一段後方の高所にあったそうですが、風害を受けることが多くそのため今の地に移ったとのこと。

小高い丘の上で、隣接して別当寺である円福寺があり、西方に中部大学、東方に高蔵寺高校があります。

創建は養老2年(718)と伝えられていますが、残念なことに社伝が失われているため由緒の詳細は不明です。

泰澄^{たいちよう}が白山を開山したのが養老元年(717)といわれており、その翌年に創建されていることから、尾張地区の白山社として最古の部類になるそうです。

この白山という地名は、この白山神社からとったもので、古くはシラヤマと呼ばれていました。

「尾張国地名考」 幕末の碩学津田正生

昔は、白山、庄名、神明、松本、出川、久木、足振、廻間、上野、和泉、一色の11ヶ村の総鎮守にして東の宮と称し、松本の諸大明^{もろだいまいよう}神社を西の宮と称し、両社共総氏神でありました。
(円福寺文書文明9年)

古墳時代この辺りは、内津川左岸の高蔵寺の平野を支配した白山の支配圏(東の宮)と、内津川右岸の平野を支配した出川の支配圏(西の宮)があったことが考えられていますので、それぞれの小国家の氏神、守護神であったとおもわれます。

寛文(1661~1673)の頃より、それぞれの村が神社を創建し、廻間、上野、和泉、一色などが離れていきました。(高蔵寺町誌)

寛永元年(1624)棟札の裏面には「尾張守護武運長久祈所」の文字が見られ、神霊代箱の箱書にも万治3年(1660)「尾張中納言光義公」の文字がみられるなど、尾張藩主からも崇敬されていたことがうかがわれます。

祭神は、伊邪那美^{いざなのみこと}命、菊理姫^{くくりひめみこと}命、大己貴^{おおあなむちのみこと}命の三柱をご祭神として祀っています。

多数の村の総氏神(小国家)であったことから境内はかなり広い神社で、ニュータウン住民の参拝も多く、初詣の人数は正月5日間で1万人余を数えた年もあったそうです。

これは、ニュータウンの住民の間に自分たちの氏神として参拝する機運が高まっていったからであろうとのこと。

昭和59年11月5日に愛知県神社等級で七等級社に認定されています。(旧社格 村社)



神社口



鳥居



拝殿

④ 外之原の白山神社(春日井市外之原町 2631)

岐阜県多治見市境にある牛臥山(標高 380m)が西へ張り出した尾根の末端部に外之原白山神社があり、都市化の進んだ春日井市の中で、山村の素朴な神社の面影を伝えてくれる数少ない神社です。

参道の入り口は、旧鹿乗・西尾線が鹹川を渡る天王橋の脇にありますが、入り口が非常に分かりにくく通り過ぎてしまいました。

参道から拝殿までは長く、途中に白山橋がありその下をうぐい川が流れています。

『高蔵寺町誌』によると、社殿の建立年月は不詳であるが、5、6百年以前のものとの伝説があるといえます。

社殿は間口 1.8m、奥行 1.22m、向拝は柿葺の一間社「流造」で正面と左右に高欄を配しています。

「流造」とは、切妻造平入の母屋の正面に同じ桁行長さをもつ庇を取付け、母屋の屋根と庇の屋根をひと続きにした結果、切妻屋根の前面が背面よりも長く延びた形式で、当社の場合、前面が 2m、背面が 1.25m となっています。

社殿は、床下や屋根の辺りを度々補修されていますが、柱、斗供、蟄股、地垂木、高欄、彫刻等は建立当時の形を伝えているように見受けられます。

このように良好な保存状態を保った理由としては、山陰の小規模な社殿で、風雨に強く晒されることが少なく、大正 14 年より社殿の被いの屋根が設置されたことなどがあげられています。

菊理姫命を祭神として、延長元年(923)の創建と伝えられていますが、由緒については社伝が失われている上に、伝えられる創建年代が古いところから様々な推測が生まれています。

- ① 養老 2 年(718) 創建と伝えられる隣村白山村の白山社の影響を受けて建立された。
- ② 外之原は昔、落武者が住みついた集落であるとの伝説があり、隣村の美濃国小木村には木曾義仲の重臣今井兼平の墓がある。今井一党は白山神を信仰していたといわれている。
- ③ 高蔵寺古窯で須恵器を焼いた渡来人の工人集団の子孫が祀ったものであろうか。
- ④ 道樹山の沢水を源流とする鹹川がすぐ下を流れており、この地区の水田は鹹川の水を利用して開かれたところから、農業神としての水分神・河川神として白山神が祀られたのであろうか。

郷土史かすがい白山信仰から 村中治彦氏

なにしろ、古く素朴で素敵な神社でしたが、夜には怖くて来るのがためらわれるような神社でした。しかし当日(平日)午後 1 時間に村人 5 人が参拝に来られており、地元で親しまれている神社である事を感じました。

(旧社格 村社)



参道の入り口



白山橋の下にはうぐい川の清流が流れている。
この橋を渡ると拝殿に着く



社殿



拝殿

⑤ 上条の和爾良神社(春日井市上条町8丁目3619)(平成4年まで白山神社と称していた)

和爾良神社は、延喜式神名帳に記載されている式内社で、和邇氏によって創建され、「従三位和爾天神を祭祀す」とあります。

和邇氏は、大和朝廷の中で大きな役割を担った氏族ですが、6世紀前半に途絶えました。

尾張国山田郡を拠点としていましたが、この地は庄内川の河道の変化のため、現在は春日部郡に属しています。



和爾良神社

(平成30年6月 小野道風神社の門柱が加わった)

建保6年(1218)木曾義仲の四天王の一人である今井四郎兼平の孫である小坂孫九郎光善が上条城を築き、同時に荒廃した和爾良神社を再興し、木曾義仲に従い霊峰加賀白山に祈って大勝したので白山の白山比咩神社の祭神の菊理姫命くくりひめのみことを信仰し合祀したとされます。

以後、和爾良白山宮(白山神社)と称していましたが、平成5年に創建時の呼称である和爾良神社に変更しました。

祭神は阿太賀田須命、伊弉冉命、建手和爾命、磯城津彦命、菊理姫命です。

目隠し門を挟んで一般道が横断しており、拝殿、本殿横にはブランコ、滑り台などの遊具があって、日曜日ともなると大勢の子どもたちが遊んでいるのが印象に残りました。

(旧社格 村社)



小野道風誕生地の碑

○ 道風のもう一つの生誕を祀る和爾良神社

道風誕生地説については、戦前から松河戸と上条において、生誕地論争が行われてきました。

上条では、「上条の和爾良神社は和邇氏由来の神社で、和邇氏が途絶えた6世紀前半に創建され、その和邇氏を祖とする小野葛絃おののくずおが上条に赴任し、894年道風が誕生した」としています。

現存最古の書論書といわれる「麒麟抄」には、「道風者尾張國上條ニシテ生レ給ヘリ」と書かれていて、このことが和爾良神社にある石碑「小野道風発祥地」碑に刻まれています。

上条の人たちは、この生誕の地に小野道風をお祀りしていないのは寂しいとして、和爾良神社八百年祭に際して、平成30年(2018)6月、滋賀県大津市にある小野道風神社から和爾良神社へと道風の分霊がされ、4丁目にあった「小野道風発祥地」碑もその時に和爾良神社へ移したそうです。

松河戸文化科学探求隊
隊長 長谷川 浩
080-3657-7052
松河戸町の沿革ホームページ
<http://matsukawado.com/>